

みどり とて

樹木のふしぎ／ハクウンボク
みどり探訪／井草八幡宮
特集／グリーンインフラ
みどりの窓／公園紹介
緑の歳時記／「食べられないサンショウ(山椒)」
園芸ワンポイント／ポインセチア



ハクウンボクの花

井ノ頭通りの街路樹

樹木のふしぎ

ハクウンボク(白雲木)

(エゴノキ科 エゴノキ属)

☆名前の由来は

白い花の満開の様子が白雲のように見えることから付きました。

☆どんな木ですか

日本各地の山地に自生し、高さ6〜15mほどになる落葉高木です。

樹皮は灰白色で若い枝は表皮が縦にはがれます。葉は互生し、長さ10cm〜20cmの円形で縁の上部に鋸歯があります。

☆どんな花と果実ですか

5〜6月頃枝先に白い花を多数付け、房状に垂れ下がります。花は約2cmで5裂し、雄しべ多数、雌しべ1個、果実は直径1.4〜1.7cmの球形で9月頃熟します。

☆用途は

庭木、公園樹、器具材等。材は緻密で堅く、傘のろくろ、独楽(こま)、彫刻材、薪炭材になります。種子の油から蠟燭を作ります。

※傘の開閉部分の部品

☆花言葉

愛の旅、壮大、朗らかな人

☆さあ！探しに

出かけてみませんか
区内では井草八幡宮、郷土博物館の庭、永福町、西永福にかけての井の頭通りで街路樹として見ることができま



ハクウンボクの実

井草八幡宮

みどり探訪

青梅街道沿いの大鳥居。その奥に東参道が延びています。

杉並区の北西部、善福寺に鎮座する井草八幡宮は、古くから地域に親しまれてきた神社です。創建から900年以上といわれ、源頼朝、太田道灌、徳川家、今川氏との関わりなども伝わっています。今回は、都内でも有数の広さを誇る井草八幡神社の緑がテーマです。



東参道

東参道はゆったりと広く、両側にウバメガシの垣根が整えられ、その奥にはイチョウ、クスノキ、シラカシ、イロハモミジ、ケヤキなどの大木がうっそうと200メートルほど続きます。鳥の声、風の音が聞こえてくる静かな道です。



本殿前

本殿前の内庭には、イチョウ、ケヤキ、マツ、クスノキ、マキなどが立ち並んでいます。



参拝後、再び楼門をくぐり、今度は北参道へ。やはり両側には、ケヤキ、クスノキ、マテバシイ、シラカシなどの高木が立ち並んでいます。その先の北鳥居をくぐるともう青梅街道は目の前です。

北参道



アクセス

杉並区善福寺1-33-1

交通：荻窪駅北口バス乗り場
0番から荻32~36の
いずれかで
「井草八幡宮」下車

本殿

本殿の背後に広がる鎮守の杜。神社を守る深い緑の杜です。ほとんど人の手が加わらないため、多種多様な植物が集まっています。



内庭の中心に立つ二代目の頼朝お手植えの松。源頼朝は奥州藤原氏征討の折、戦勝を祈念し雄松雌松(クロマツ、アカマツ)を植

えましたが、2本とも枯れてしまい、現在はこのクロマツが二代目として大きく育っています。今年も元気にたくさんの花をつけました。



クロマツの花



頼朝お手植えの松(二代目)

初代のクロマツは、天然記念物に指定されたほどの大木。樹齢も800年を超えていました。枯れた後は、衝立に姿を変え、回廊に展示されています。



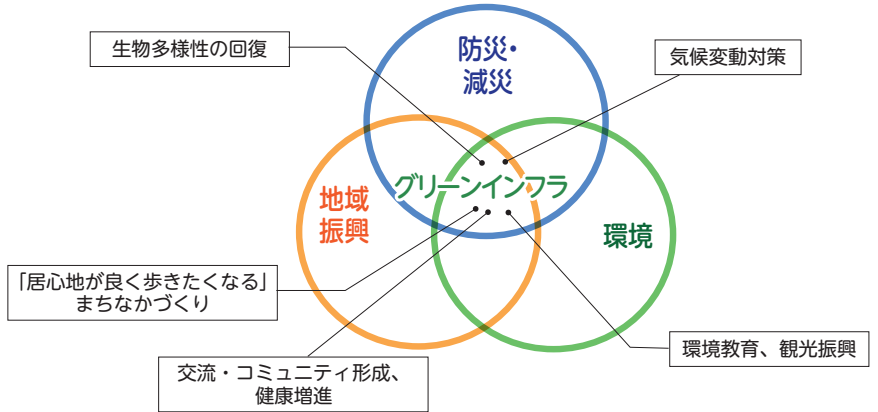
東参道を右に折れた左手に楼門があり、ここを抜けて本殿にむかいます。

グリーンインフラ

まちづくりにおいて、グリーンインフラという考え方が国内外で注目を集めています。生物多様性やカーボンニュートラルといった世界的な環境課題に取り組むため、杉並区においても、積極的にグリーンインフラを活用したまちづくりを進めていきます。

グリーンインフラって何？

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める取組です。自然が持つ力を活かすことで、環境面でも経済面でもより良いまちづくりが進められます。



グリーンインフラの取組

グリーンインフラには、様々な取組があります。都市部では右図のような取組が期待できます。



出典:国土交通省グリーンインフラ実践ガイド

取組をもっと詳しく見てみる

豊かな緑と水辺に囲まれた暮らしの風景として、右図のような取組があります。



出典:国土交通省グリーンインフラ実践ガイド

憩い・集おう 公園紹介



富士見丘北公園 (拡張)

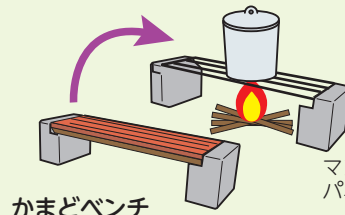
ネットで囲いキャッチボールや少し大きいボール遊びができる球戯場・バリアフリートイレ（写真左にあるえんじ色の屋根）・あずまや等を新設しました。

住所：久我山5丁目24番23号
面積：2, 187㎡

馬橋公園 (拡張)

ワークショップ、利用者ヒアリング、説明会などを通じて、地域の方に親しまれる公園になるよう検討しながら、公園拡張を行いました。管理棟、草地広場を新設、災害に備えたマンホールトイレ、かまどベンチ等を整備しました。草地広場は馬橋小学校の子供たちが「青空広場」と名付けてくれました。また、桜などの既存樹木を残すとともに新たな樹木も植え、みどりを守り増やす取組もしています。

住所：高円寺北4丁目35番5号
面積：25, 698㎡



かまどベンチ



マンホールトイレ

マンホールの上に簡易な便座やパネルを設置し災害時に使用



天沼いこい公園 (新設)

区民の方からのご寄附を受け、「まちの庭」をテーマに開園。健康遊具・パーゴラなどを設置しました。

住所：天沼1丁目42番13号
面積：165㎡

緑の歳時記

Kさんのちょっと好奇心 「食べられないサンショウ」

暖地の沿海地や山野に生え、高さは5〜15mになります。葉は長さ30〜80cmの大型の羽状複葉で互生します。小葉9〜15対で長さ5〜15cmの広披針形。枝や幹にはいぼ状の刺が一面に生えています。



3、カラスサンショウ (烏山椒)

落葉高木

前が付きました。



サンショウ (山椒) ミカン科

1、フユサンショウ (冬山椒) 常緑低木
暖地の山野に生え、高さは2〜3m。葉は奇数羽状複葉で互生。小葉は2〜3対で長さ4〜8cmの狭長楕円形、雌雄異株ですが、雄株は知られていません。
枝や葉柄の基部に対生する刺があり、食べられるサンショウと同じですが、一番の特徴は葉軸に狭い翼があることで見分けられます。



2、イヌサンショウ (犬山椒)

落葉低木

山野に生え、高さは2〜3m、葉は奇数羽状複葉。小葉は6〜8対、長さ2〜4cmの長楕円形で広披針形、枝に1本ずつの互生する刺があります。葉はサンショウに似ていますが、香りが悪く利用できないのでこの名前が付きました。

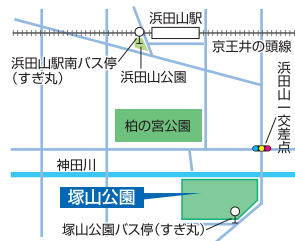
みどりの相談所の先生に聞く

園芸ワンポイント

指導：戸辺広二先生

みどりに関する相談は
塚山公園 みどりの相談所
 ☎03-3302-9387

杉並区下高井戸5-23-12
 毎週日曜日(第5日曜日を除く)
 午前9時30分～正午、午後1時～4時30分



ポインセチア

トウダイグサ科トウダイグサ属
 常緑低木
 メキシコ原産



由来

アメリカ人の初代メキシコ大使ジョエル・ロバーツ・ポインセットが、自生しているポインセチアを持ち帰り普及させました。

日本に伝わったのは、明治時代の中頃です。

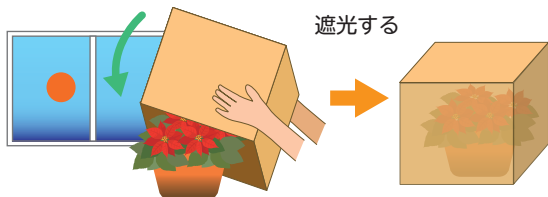
緑の葉(永遠の命)、赤い苞(葉が変化したもの)、白い樹液(純潔)のクリスマスカラーを持つ、ポインセチア。赤い苞はキリスト誕生の地へと導いたバツレヘムの星を象徴しているとされています。

特徴

冬の定番植物ですが、寒さに弱く、気温15℃以上を保つ必要があります。例えば、春夏は屋外、秋冬は室内で管理します。

また、短日性(※1)の植物なので、8月下旬以降、約60日間夕方5時から朝8時頃まで段ボールなどをかぶせ、暗くします。

※1 短日性:日光を浴びる時間が短くなると花芽をつけること



水遣り

土が乾いたら水遣りしましょう。また、冬は水遣りを控えるようにして、与えるときは人肌の温かさにしてください。

肥料

冬は肥料を与えないようにしましょう。肥料は、5～11月は2週間おきに液体肥料を与えるとよいでしょう。

栽培カレンダー

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水やり	控えめな水やり (12月～3月)			積極的な水やり (4月～11月)								
肥料					2週間おきに液体肥料を与える (5月～11月)							
剪定				花が終わったら剪定する (3月～6月)			必要に応じ摘心する (7月～9月)					
植え替え				根鉢の1/3を切り落とし用土を入れ替え (3月～6月)			根を傷つけないよう植え替えるが、増し土のみにする (7月～9月)					

寒さ対策

霜にあたるとうすぐに枯れてしまいますので、室内で15℃以上を保てる風通しのいい場所に移動しましょう。

また、暖房の近くは乾燥した風が当たり、傷めてしまう原因になりますので避けましょう。

剪定

花の終わった3～6月に形を整え、腋芽(※2)のある1～3芽まで切り詰めます。必要であれば、7～9月に摘心(※3)します。

※2 腋芽:葉と茎の付け根にある芽

※3 摘心:芽を取り除く作業

植え替え

①3月～6月の場合

根鉢の1/3を切り落とし新しい用土に取り替えます。

腐った根は取り除きます。

1～3芽までのところで短く切り詰め

②7月～9月の場合

根を傷つけないようにして植え替えるか、増し土(※4)のみします。

※4 増し土:新しい土を足すこと

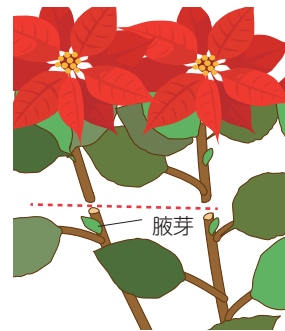
増やし方

挿し木の種類「密閉挿し」をおすすめします。赤玉土を浸した後、ビニールポットに分けます。穂木はよく洗った後、長さ2～3cmにして赤玉土に挿します。

ビニール袋をかけて外れないように紐で結び、明るい日陰で3～4週間経過すると、発根し活着します。

気を付けること

白い樹液は、かぶれたり、かゆみが出る方もいますので、手袋を着用するとよいでしょう。もし、樹液が肌についた場合はすぐに流水で洗い流してください。



編集後記

「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

昔から親しまれてきた、井草八幡宮の取材でした。古い歴史とうっそうとした緑に囲まれた素晴らしい環境、より大切にしなければと、ひひひと感じました。(原)

この春、サンショウの小さな苗木を植えました。もちろん”食べられるサンショウ”です。まだ葉も少なく弱々しいので、アゲハ達には分けてあげません。大事に育てて、来年のタケノコの季節に楽しもうと思っています。(松)

今年は梅雨の入りか2週間遅れました。

そのせいではないと思いますが、草や木の花々が早く開花しているのにびっくりしています。(山)

1年ぶりに、編集委員会出席するも、浦島太郎的?感覚にて復帰出来ず (小)



みどりの新聞 みどりとひと182号 令和6年7月20日発行

編集 / みどりのボランティア

編集・発行 / 杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111

「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp/>

